

2015年4月15日

各 位

旭化成株式会社

中国・内モンゴル ホルチン砂漠での植樹活動に参加

～旭化成と第一財經の「樹が待っている」公益プロジェクト～

旭化成株式会社（本社：東京都千代田区 社長：浅野 敏雄）は、中国・内モンゴル自治区のホルチン砂漠で砂漠化進行阻止、緑化のために7,500本の植樹を行いました。

旭化成では、2011年より「樹が待っている」公益プロジェクトを展開しています。この活動は、中国の持続可能な未来に向けて中国の主力ビジネス媒体の第一財經と環境保護意識を高める活動の一環で、webサイト新浪（sina）のミニブログである微博（weibo）を活用して、一般の人から投稿された‘水’や‘樹’などの環境保護に関する写真とファンの数に応じて旭化成が樹を植えるという中国の人びとと一体となった活動です。

「樹が待っている」プロジェクトは中国のNGO団体「上海根と芽」（Shanghai Roots&Shoots）の「百万本植樹計画」の認定を受けており、「上海根と芽とともに植樹活動を実施しています。

5年目を迎える今年は、4月11日、12日に中国の旭化成グループ現地法人各社より12名の社員が参加し、急速に砂漠化が進む内モンゴル自治区のホルチン砂漠で7500本の植樹活動と剪定作業を行いました。参加者は、以前は草原だった砂漠の地に穴を掘り、乾燥に強いポプラと灌木の苗木を1本ずつ植えていきました。そして、植樹活動を進める中で、内モンゴルの自然の苛酷さを実感しつつ、環境保護の大切さを再認識しました。旭化成はこの5年間で2万6,430本の樹を内モンゴルで植えました。今年は2012年に「樹が待っている」プロジェクトで植樹活動を行った林地にも立ち寄り、3年前に植樹した樹々が順調に大きく育っていることが確認できました。

当社は、この植樹活動の成果として植えられた樹が大きく育ち中国の森林資源の復活に貢献するとともに、今後もさまざまな視点から中国での環境保護活動をしていきます。



2015「樹が待っているプロジェクト」植樹活動



「上海根と芽」の2010年植樹地での剪定作業



3年前の2012年「樹が待っているプロジェクト」植樹活動で植樹した樹がすくすくと育っている

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

旭化成株式会社

広報室 TEL:03-3296-3008